



Nagoya Noh Theater

名古屋能楽堂

正月特別公演



能「安達原」



能「翁」

徳川家康と 能・狂言

幕府の権威固めと次なる作戦？
徳川家康・秀忠御成り能
慶長十年（1605）七月七日・八日
伏見城

家康はわずか二年で將軍職を長男秀忠に引き継ぎ、
四月十六日に京都伏見城で將軍宣下、
五月一日に諸大名の参賀と演能が行われました。
ただ、気がかりなのは豊臣家のこと。
秀頼に会見を提案したのに、六月になって
断固拒否されたのです。翌月の演能の場で、
父子は何を考えていたでしょう。
「翁」と「安達原」はともに、家康お氣に
入りの観世大夫がつとめました。

能

おきな
「翁」（観世流）

翁 久田 勘鷗
千歳 山中 雅志
三番叟 鹿島 俊裕

狂言

めぢか
「目近」（和泉流）

シテ 松田 高義

能

あだちがはら
「安達原」（観世流）

白頭
急進之出
シテ 久田三津子

令和6年

1月3日（水）13:00開演（12:00開場）

指定席.....5,200円

自由席（一般）.....4,200円

自由席（学生）.....2,000円

※能「翁」開演後30分程は入退場できませんのでご注意ください。

10月13日（金）より
前売券発売

主催



名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]



能楽協会 名古屋支部



※能「翁」開演後30分程は入退場できませんのでご注意ください。

能
翁（観世流）

翁 千歳
三番叟
面箱持

笛
脇鼓
小鼓頭取
脇鼓
大鼓

久田 勘鷗
山中 雅志
鹿島 俊裕
井上 蒼大

竹市 学
福井 聡介
後藤嘉津幸
船戸 昭弘
河村眞之介

下川 宜長
山階彌右衛門

後見

狂言
目近（和泉流）

地謡
伊藤 裕貴
吉沢 旭
本田 勲

休憩二十分

狂言後見
井上松次郎
今枝 郁雄

松田 高義
伊藤 泰
野村 信朗
野村又三郎
藤波 徹

竹市 学
船戸 昭弘
河村裕一郎
加藤 洋輝

果報者
太郎冠者
次郎冠者
素つ破

後見

能
安達原（観世流）

前シテ 里女
後シテ 鬼女
ワキ 山伏祐慶
ワキツレ 供山伏
アイ 強力

久田三津子
飯富 雅介
橋本 幸
野口 隆行

山村 友子
後藤嘉津幸
河村裕一郎
加藤 洋輝

小鼓
大鼓
太鼓

後見

地謡
吉沢 旭
本田 勲
松山 幸親

山中 雅志
山階彌右衛門
角 幸二郎

上田 公威
下川 宜長

後見

【イヤホンガイド】

◆能「翁」
日本語／大山 範子
（神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員）

◆能「安達原」
英語／藤江さおり（通訳ガイド）
日本語／米田真理
（朝日大学経営学部教授）
英語／藤江さおり（通訳ガイド）

●止むを得ず曲目、出演者等が変更となる場合があります。

●上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は事前に許可を受けた方以外はご遠慮ください。

◆能解説「翁」（おきな）

新春、切火で清められた舞台に、潔斎をすませた演者が、面箱・翁・千歳・三番叟と続いて全員が登場する。「切火」とは、この場合、幕際から火打石で火を飛ばすこと。後見の役割。清新の気が漲る。翁は狩衣・指貫・面箱・千歳・三番叟は侍烏帽子に直垂。囃子・地謡などは侍烏帽子に素襦を着る。「翁」の舞は三部から成り立っていて、最初の千歳は「鳴るは滝の水」と謡い出し、若々しく颯爽とした舞。次に翁の面を舞台上でつけたシテは祈禱的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。その中で角・脇座前中央で三回ずつ拍子を踏む。これを「天・地・人の拍子」と称する。翁と千歳の退場のあと、三番叟の賑やかな舞となる。はじめの部分を「搦之段」、黒式尉の面をつけ、鈴を持った後半部の舞を「鈴之段」と称する。天下泰平、国土安穩を祈る儀式能。

◆狂言解説「目近」（めちか）

目出度い正月の折柄、果報者（主人）は客を招待して《目近籠骨》を進呈しようと考え、二人の召使いに都へ行って買ってくるように命じます。この目近籠骨を知らない召使いたちは運悪く都の素つ破（すつぱ）詐欺師と出遭い、言葉巧みに騙されて……

目近籠骨とは特殊な扇の事で、通常の扇よりも要が骨のより近くに打たれていて持ちやすいものが《目近》。骨の数が多いものを《籠骨》と云いますが、二人の召使い同様に現代では馴染みも薄くなかなか通じない言葉です。狂言「末廣かり」と同類曲で眼目の扇は《末廣》とも呼び、殊に「繁葉」を表す縁起物とされ古来から慶事の記念品、即ち祝儀扇としても配られてきました。ゆえにこれらの演目は、正月などの目出度い雰囲気の中で上演される事が多くあります。

また流派によっては、その名の仮に「目近籠骨」というタイトルも伝承されています。

◆能解説「安達原」（あだちはら）

山伏祐慶一行は奥州安達原にさしかかり山中の一軒の庵に宿を願い、なんとか泊めてもらう。夜も更け庵の里女は糸糸の唄を謡いながら糸懸の様を見せたりする。そして、もてなしの焚火の木を山へ取り出かけると言って出かけるが、その時寝室を覗かぬよう念を押す。

〈中入り〉 供の強力がそつと寝室を覗くとそこには人間の死骸が散乱している。一行はこの庵が鬼女の住む黒塚と知り、急に逃げる。すると、これを知った里女が鬼女となり追いかけてくる。これを祐慶が折って追い払い退散させる。

正月特別公演事前学習講座

12月16日(土) 14:00～16:00

受講チケット500円

◆能「翁」・「安達原」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。

※事前学習講座のチケットは、名古屋市文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

チケット料金(税込み) *前売券発売日 令和5年10月13日(金)

	指 定 Reserved	自 由 Non reserved	
		一般 Adult	学生 Student under 25 years old
前 売 Advance sale	5,200円	4,200円	2,000円

* 学生券は25歳以下を対象とします。* 未就学児のご入場はお断りいたします。

* チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

* 事業団友の会会員・障がい者手帳等をお持ちの方（付添者1名含む）は400円引きです。（前売りのみ。学生券の割引はありません。）

（名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ、各割引の併用はできません。）

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂／TEL.052-231-0088

* 前売券発売日当日は、お電話がつながりにくいことがあります。

名古屋市文化振興事業団チケットガイド／TEL.052-249-9387

（平日9:00～17:00／チケット郵送可）

名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口＜土日祝日も営業＞でもお求めいただけます。

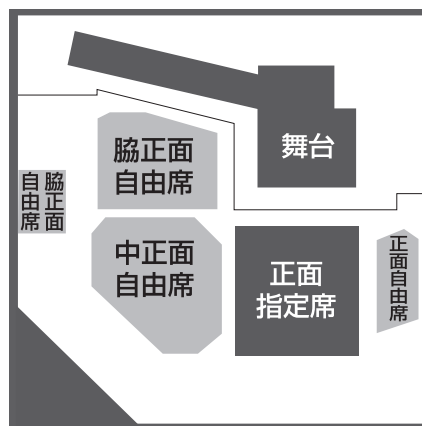
（工事休館などがありますので、ホームページでご確認ください。）

チケットぴあ／Pコード521-938

* 外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも割引致します。（名古屋能楽堂取扱いのみ）

Discount is available by showing passport or other proof of foreign nationality. (at Nagoya Noh Theater only)

お問い合わせ／名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



公演についての最新の情報は
名古屋能楽堂ホームページを
ご覧ください。



https://www.bunka758.or.jp/facility/nougakudo/